

生駒市医療介護連携ネットワーク協議会  
令和元年度第3回在宅医療介護推進部会 会議録

開催日時	令和元年11月13日(水) 午後2時00分～午後4時10分
開催場所	メディカルセンター 3階研修室
出席者 (部会員)	萩原部会員(部会長)、井上部会員(副部会長)、宅見部会員、加藤部会員、嶋司部会員、山口部会員、佐々木部会員、倉本部会員、高山部会員、世古部会員、吹留部会員、池田(幸)部会員、池田(綾)部会員、松岡部会員、桐木部会員、行徳部会員、筒井部会員
出席者 (関係者)	在宅医療・介護連携支援センター 堀井センター長 株式会社関西計画技術研究所(支援業務受託者) 2名
欠席者	なし
事務局	福祉健康部 影林部長、田中次長、福祉健康部地域包括ケア推進課 渋谷主幹、福祉健康部介護保険課 福山主幹、福祉健康部地域医療課 石田課長、桐坂補佐、伊藤主幹、高瀬、生駒市消防本部警防課 植木係長
傍聴	なし
案件	1 報告 ①2019 ケアリンピック生駒について ②居宅介護・介護予防指示書及び診療情報提供書の取扱いについて ③令和元年度多職種連携研修会について ④第2回 在宅医療介護推進部会のまとめ 2 グループワーク テーマ1 医療と介護のコミュニケーションを円滑にするための方法について テーマ2 令和2年度 合同会議、多職種連携研修会、市民フォーラムについて 3 その他
資料	資料1 2019 ケアリンピック生駒 展示・イベント(案) 資料2 居宅介護・介護予防指示書及び診療情報提供書の取扱いについて 資料3 令和元年度 多職種連携研修会 アンケート調査結果 資料4 第2回 在宅医療介護推進部会のまとめ チラシ 令和元年度 介護力スキルアップ ミニレクチャー
議事の経過	
発言者	発言内容
事務局	1 開会 配布資料確認
部会長	2 案件 案件1 報告 ①2019 ケアリンピック生駒 について  今日もグループワークをしっかりとやれたらと思っている。ご協力よろしくお願います

部 会 長	<p>る。頑張っていきましょう。</p> <p>報告① 2019 ケアリンピック生駒について、ケアリンピックの作業部会の委員も引き受けていただいている部会員から報告をお願いします。</p>
部 会 員	<p>(資料1に基づき説明)</p>
部 会 長	<p><b>②居宅介護・介護予防指示書及び診療情報提供書の取扱いについて</b></p> <p>報告②については私から報告する。</p> <p>(資料2に基づき説明)</p> <p><b>③令和元年度 多職種連携研修会について</b></p> <p>報告③について、部会員から報告をお願いします。</p>
部 会 員	<p>(資料3に基づき説明)</p>
部 会 長	<p><b>④第2回 在宅医療介護推進部会のまとめについて</b></p> <p>多職種連携研修会は、なかなか楽しい会であった。</p> <p>報告④について、関西計画技術研究所から報告をお願いします。</p>
関 西 計 画	<p>(資料4に基づき説明)</p>
部 会 長	<p>今日お集まりの皆さんはいろいろな会議や研修会に出られていて、私自身もこの場の立ち位置が少しぼやけていたようにも思う。この部会としては、在宅医療と介護に絞る必要はないが、そこを中心にグループワークを進めていきたい。いろいろと派生するものがあれば、各部署に提案するという形で意見を挙げていくことは良い。今日のグループワークがこれから始まるが、進行役の方は是非その辺を考えながら進めていただければと思う。</p> <p>それでは、報告案件はここまでとさせていただき、グループワークに移ろうと思う。グループワークは、副部会長に進行をお願いします。</p> <p><b>案件2 グループワーク</b></p> <p><b>テーマ1 医療と介護のコミュニケーションを円滑にするための方法について</b></p>
副 部 会 長	<p>それでは、テーマ1についてご検討いただきたいと思う。まずグループごとに発表者と進行役を決めてから始めていただくよう、よろしくをお願いします。</p> <p>(意見交換)</p> <p>(グループ発表)</p>

3 グループ	<p>コミュニケーションの阻害について、スムーズに連絡ができていない、各介護保険等の知識の不足、各職種の情報があつたほうが良いのではないかとことに絞って話し合いをした。</p> <p>まず、コミュニケーションをスムーズに取れる方法として、良好な事例を積み重ねて、やり方を挙げていくことが必要である。あと、各先生やケアマネもそうだが、各所属ごとの連絡を取りやすい時間帯、禁止事項のようなタイムスケジュールなどを、分かっておけば、スムーズに連絡が取れるのではないかと話し合いをした。</p> <p>次に、ケアマネが医師に話を聞きに行く時も、例えば、薬のことを聞きたいが、何を聞いていいかわからないため、整理が出来ておらず、うまく聞けないということがあるので、そのような場合は、薬剤師や他の職種を通じて聞くとスムーズに行くのではないかと話した。</p> <p>そうすると、各職種の役割が分からないと相談もできないので、このような機会に、例えば1人10分ぐらいで自分は何をしていて、どのような取り組みをしていて、このようなことができるという、情報交換の場があれば良いのではないかと。ケアリンピックで、専門職が相談できる専門コーナーを作り、年に1回実施したら良いのではないかとということも出ていた。</p> <p>あと、知識の不足や情報を取ることにについては、市民向けの情報や冊子で、例えば、小規模多機能型居宅介護はどんなことをしているのか、特別養護老人ホームは何をやっているのかなどが分かる簡単なものがあればいいのではという話が出ていた。</p> <p>現在は、高齢者に対して様々な取組を行っているが、10年後のことを考えると、小学生や中学生に介護の仕組みを教え、子どもから親に知識を与えてもらうという取組をすると、面白いかと思った。一人で一人をみていかなければいけないということで、自分たちが自分のこととして考えられる機会があれば良いという話も出ていた。</p>
1 グループ	<p>コミュニケーションの円滑ということで、診療情報提供書について話題が膨んだ。まず1つは、施設やサービスの申し込みに必要な検査や書類が施設ごとに違うので、もっとシンプルにできたら阻害因子がなくなるのではないかと。かかりつけ医がいる場合、入院がきっかけで入院中の主治医が改めて居宅介護指示書を書いて退院していただくという段取りになっているが、その時にうまくいかないことが多いということが話題になった。結果、勤務医とかかりつけ医とで、居宅介護指示書や診療情報提供書を書くモチベーションが違うのではないかと、そこが阻害になってくる因子の一つではないかという話があった。</p> <p>対応策として、診療報酬の話も少し出たが、なかなか解決が難しい。どうやったら勤務医とかかりつけ医とスムーズに流れていくのかという点で、ケアマネが入院前の居宅介護指示書を添えて医師に依頼をかけたらどうかと話しあった。あと、具体化できるかわからないが、病院の医師への敷居を低くするために、生駒市が主催し、病院内でこの部会のように、皆が集まれる場を作ることで、病院や医師の紹介にもなるという研修があれば、ケアマネも医師もお互いに顔を見ることができると。そのようなハード面を整えてもらったら、少しは阻害因子がなくなるのではないかとという話があった。</p>

2グループ	<p>1グループととてもよく似た結果になった。診療情報提供書、居宅指示書の流れの中心に話をした。診療情報提供書、居宅介護指示書がなかなか返ってこないのはなぜかということで、介護側と医療側で時間軸のギャップがあるのではないかと。介護側は、早くにその書類が欲しいと思っているが、なかなかそれを出せない病院側の事情がどうやらあるらしいということが分かった。病院側の事情として、医師の事情がある。書類は紙ベースで依頼が来るが、医師は電子カルテを使用している。電子カルテに入っている書類は早く書かれるが、紙ベースは、後回しになってしまう、書き方が分からない、何を書いて良いか分からないなど、必要認識のギャップも介護側と医療側ではある。</p> <p>例えば、必要なデータが、看護サマリーなどと内容が同じであれば、電子カルテ上にあるデータを集めて医師が記入できるが、紙の書類にデータを持っていくことが難しい。そこを埋めるためには、入院時から退院時に必要な書類を早くに用意しておく、コメディカルの方が、医師が書類を記入するためにサポートをしてくれたり、先生が書かないといけないと思、生活の情報などを集めてくれたりするのではないかと話していた。</p> <p>ケアマネから依頼する時にも、何故この書類が要るのか、どういうところで要るのか、どんなことを書いて欲しいのかと具体的に添え書きをつけて渡したほうが良いのではないかと。今回、資料2に記載があるが、「今後この方は家でこのようなサービスを使おうと思っていて、お風呂に入る時に、こんなことをしたいと思っているがよろしいか」と具体的に書いておくと、医師は書きやすいのではという話があった。</p> <p>また、病院システムの問題もあるようで、依頼を受けた書類がどのように流れていくかが、書類の種類や病院によって様々である。そのため、窓口に来た書類と郵便で来た書類では、流れが違うので、統一して居宅介護指示書の流れとしてルールを作るのが難しいような事情がありそうであった。</p> <p>先生に認識を持ってもらうための解決策は、先ほどの手紙をつけておくこと、居宅介護指示書をどこに持って行ったらいいのかという一覧がいないのではないかと、書類のワンストップ窓口のようなものを、病院で作ってもらえたらスムーズにいくかもしれないという意見であった。</p> <p>また、今後の話だが、紙媒体のものと電子媒体のものを一緒に統合していこうと思ったら、ICTの活用が一緒にできたら良い。また、先ほどのグループと同じで、医師と介護職とが直接交流できる場が設けられたらなお良いという話をした。</p>
副 部 会 長	<p>ありがとうございました。各班ともたくさん課題が出ていたと思うが、次回に向けて1つでも2つでも対策がまとまっていければと思う。よろしく願います。</p> <p><b>テーマ2 令和2年度 合同会議、多職種連携研修会、市民フォーラムについて</b></p> <p>それでは、テーマ2に移っていただきたい。最初に紹介した通り合同会議・多職種連携研修・市民フォーラムに向けて、テーマや方法についてご検討いただければと思う。 (意見交換)</p>

副 部 会 長	ありがとうございました。いろいろとアイデアも、日程・時間的なことも出てきたようだが、これも次回にもっと具体化するということか。
事 務 局	今回は第4回で来年度の計画もあるため、今回預らせていただく。
副 部 会 長	今のを持ち帰って煮詰めてもらうという話で、引き続き次回よろしく願います。以上で、グループワークは終了させていただきます。
部 会 長	いろいろなアイデアが出てきて、進んでいったらと思う。また、今日の話の中で、取り組めそうなのは、電子カルテを使用しているので紙の書類は時間がかかるという点で、電子カルテにエクセルの雛型などを置くことができるのか。
部 会 員	置くことはできる。しかし、医師が記入する書類がかなり多く、電子カルテに入れてほしいと要望を先生方があげているが、すべてを入れてもらうことは難しい。優先順位や取り込みをする書類については、選考を行い業者に依頼している。
部 会 長	電子カルテへの導入を検討してもらうようお願いしたい。 あと、前医が記載した居宅介護指示書を参考のために次の主治医に持っていくなど、過去に提出された書類を添付することは問題ないのか。前医からの情報があれば、最初の診察だけでは分からない気づきもあって助かる。無断で使うことは問題があると思うが、許可があればいいのか。
事 務 局	持ち帰って確認をさせていただき、改めてご報告させていただきます。
部 会 長	このグループワークは毎回すごいと思うのは、だんだん知識や感覚が研ぎ澄まされていくことである。今回、資料として出してくれた生駒市の丸い絵だが、上手にまとめられている。きっと今日のグループ発表もきれいにまとめていることを期待する。よろしく願います。 案件3 その他について、何かあるか
事 務 局	<b>案件3 その他</b> 事務局から報告させていただきます。本日、「介護カススキルアップミニレクチャー」のチラシを入れている。来年の1月18日と2月29日（土）に介護技術の向上ができるような内容で交流とミニ講義を企画しているので、ぜひともヘルパーの方やケアマネジャーの方にご参加いただけたらと思う。 もう1点、ポケットティッシュを同封している。「11月30日は人生会議の日」ということが定められたので、市民の方に普及啓発を行う予定である。地域医療課と介護保険課と地域包括ケア推進課の3課で、11月25日（月）16時から近鉄生駒駅前中央改札にてティッシュ配りを行う。時間のある方は、ご参加いただき一緒に啓発活動を出来たら

<p>部 会 長</p>	<p>と思うので、参加が可能な方は事務局までお声かけ願う。</p> <p>お帰りの時に、お持ち帰りいただいて、病院や事業所内で、他の職員にも啓発していただくのとあわせて、窓口に置いて患者や利用者にお配りいただくようご協力をお願いします。</p> <p>次回の部会は日程が決まり次第改めてご連絡する。令和2年2月16日のケアリンピック開催後を予定している。</p> <p>ただ、次回部会までに、入退院調整マニュアルの運用状況調査を実施するので、調査票の作成時に皆様のご協力をどうぞよろしくお願いする。</p> <p><b>3 閉会</b></p> <p>他、何かあるか。</p> <p>ないようなら、令和元年度第3回在宅医療介護推進部会を閉会する。お疲れ様でした。</p>
--------------	---